

よろずは

平成二九年
二月号

万葉歌と季節の植物⑥

池水に影さへ見えて咲きにはほふ馬酔木の花を袖に扱入れな

(巻二十・四五二ノ大伴家持)

池水に影まで映して咲き輝いている馬酔木の花を、袖にし
ごき入りたいよ。

今回は、万葉植物としても有名なアシビの歌をご紹介します。
アシビはアセビやアシボともいい、早春に壺状の小さい白い花を
咲かせます。『万葉集』では「馬酔木」「馬酔花」「安之婢」などと
表記され、呪的な力を持つ植物と考えられていたようです。また、
当時の庭園の植物としても、愛された花でした。

右の大伴家持の歌は、「山斎を属目で作れる歌三首」の二首目で
す。「山斎」とは、古代の庭園のことを指します。この歌は宴会の
際の歌と考えられており、宴の主人の館で目にした庭園に心惹か
れて詠まれたものです。その庭園には馬酔木が植えられていたよ
うで、他の二首も、馬酔木が美しく咲く庭園の風景を詠んでいます。
家持は、池の水に照り映えるほどに美しいその花を、袖にしご
き入れて楽しみたいのだと言います。家持は、「霍公鳥と藤の花と
を詠める歌一首」(巻十九・四一九二)でも、ホトトギスが散らす藤波
の花を袖に扱き入れて、袖に染みても構わない、と詠んでいます。
「袖に扱入れ」という表現は、季節の美しい花に対する、家持の
最大の讃辞なのかもしれませんね。

タイトルの「よろずは」は、「万葉」を訓読みした
ものです。

※「万葉歌と季節の植物」では、万葉文化館の万葉庭園にある植物を中心
に、季節の万葉歌をご紹介します。

【馬酔木・あしび／あせび】

あしびには、写真のように
ピンクの花を咲かせる種類も
あります。当館の庭園では、
あしびを各所で見ることで
きます。



【万葉古代学係】